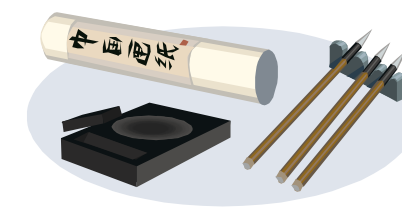




しょうどうぶもん しんさそうひょう 書道部門 審査総評



ことし にほんしょうがいしゃ きょうかいそうりつ しゅうねん とやま せつりつ しゅうねん い きねん
今年^{ことし}は日本^{にほん}障害^{しょうがい}者^{しゃ}リハビリテーション^{りハビリテーション}協会^{きょうかい}創立^{そうりつ}50周年^{しゅうねん}、戸山^{とやま}サンライズ^{さんらいず}設立^{せつりつ}30周年^{しゅうねん}と言う^い記念^{きねん}すべき
とし とやま ひたちのみやでんか おむか きねんしきてん もよお きょうかい たい えいねん
年^{とし}であり、戸山^{とやま}サンライズ^{さんらいず}において常陸^{ひたちのみや}宮殿^{みやでん}下^かを御^お迎^{むか}えして記念^{きねん}式^{しきてん}典^{でん}が催^{もよお}されました。協会^{きょうかい}に対する^{たい}永年^{えいねん}の
しえん きょうりょく たい かんしゃ こんごいっそう きょうりょく おことば でんか
支援^{しえん}、協^{きょう}力^{りょく}に対する^{たい}感謝^{かんしゃ}と今後^{こんご}一層^{いっそう}の協^{きょう}力^{りょく}をとの御^お言葉^{ことば}が殿^{でん}下^かよりなされました。

このコンテストも 29回目を数えることを考えると、書の持つリハビリ効果ということが当初より認識されていたことがわかります。

書は日常生活に溶け込んでいる文字、身近な伝達手段として存在する文字を毛筆と黒い墨で表現するものです。そこには一本の線を引く為に多様な動きが要求されています。呼吸や筆圧の変化、遅速の変化や抑揚の変化等により万変する線が生じます。細かな指の動きや腕の働きが神経に刺激を与えて社会復帰への大きな手助けとなっていることは、コンテストに出品する人数の多さに表わされています。

また書は「心の鏡」あるいは「書は心画」という言葉に表れているように、心の動きを表現するに毛筆は大変貴重な材料です。白い紙に黒い墨で一過性の線を引く、その緊張感と達成された喜び、今日より明日へと繋がる連綿とした高揚感が書の持つ魅力と言えましょう。

今回も多くの方々の出品を頂きました。永い修練の賜物の書、生き生きとした心の書、整然とした書など大変見応えのある作品が多くありました。一層の努力の成果を今後も期待します。

わたなべ かいざん そうげんしょうかいしん さ かいいん まいにちしょうてんしん さ かいいん
渡部 會山 (創玄書道会審査会員、毎日書道展審査会員)



しゃしんぶもん しんさそうひょう
写真部門 審査総評



デジタルカメラの普及と技術的向上で今までより格段に被写体の範囲が広がりました。人の動きのみならず、動物写真に格段の進歩が見られます。

早いシャッターが切れること。ズームレンズで近寄れることなど、その有利な条件を生かして、今まで写せなかったものが見事にとらえられています。体のハンディキャップを乗り越える上で、ズームレンズが有効に使われているようです。

デジタルのみでなく、フィルムを使われる方もしっかりその特性を生かしていい質感の作品を出されてさすがと感じました。

ただ、惜しいと思うのは、パソコンを使えばもっと整ったトーンになったと思えるものがあったこと。トリミングすればもっと引き締まった絵になったのにと惜しまれる作品も見受けられました。

最後の「絵」になったところが勝負どころですから大胆にやってください。

たかいわ しん
高岩 震 (フリーカメラマン、日本映画撮影監督協会員)